

○今月のみことば

H.0

「わが子よ、聞け、わたしの言うことを受け入れよ。そうすれば、命の年月は増す。わたしはあなたに“知恵の道“を教え、“まっすぐな道“にあなたを導いた……“神に逆らう者の道“を歩くな。“悪事をはたらく者の道“を進むな。それを避けよ、その道を通るな。そこからそれて、通り過ぎよ。」

箴言4章10～11節、14～15節

コロナ禍の中で迎える3度目の「3月・別れの季節」

58回生 高3、61回生 中3の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

旧約聖書・創世記12章で、アブラハムが神さまの声に聞き従って、行き先も知らずに旅立ったように、1人の旅人として、4月から始まる「人生の旅」に夢をふくらませ、“喜びと希望”に胸をときめかせている人もいることでしょうか。反対に新たに辿る「道」が、果たして神さまが示される「知恵の道」・「まっすぐな道」に続くものなのだろうか、不安を募らせている人もいるかもしれません。また中には、「まだまだ“モラトリアム”＝“猶予の期間”＝“大人になるのを待ってもらえる時”を楽しみたい！！あれもこれも経験してみたい！！」「もう少し遊んでいたい！！」といった気持ちが強い人もいることでしょうか。

新たな出発を控えて、ミッション・スクールに学んだ者として、神さま、そしてイエスさまは一体どのような「道」を歩まれたのだろうか？と振り返ってみましょう。

まず聖書の中で神さまは、繰り返して「わたしは必ずあなたと共にいる。」と、私たちに励まし寄り添って下さいます。私たちの弱さをそのままに受け入れ、わたしに合わせて、共に「旅」を歩んでくださるのです。その道は決して平坦な道ではなく、かえって険しい道、苦しみを伴う道です。時にはあまりの苦しさ、絶望に襲われ、倒れそうになることもあります。けれども、どれほど厳しく困難を伴う「道」であっても、神さまは、わたしを支え、いつもわたしのペースで歩いて下さるのです。覚束ない足どりであっても、その歩みについて行けば、少しずつ新たな景色が見えてくるはず。それは「私の使命」とも言えます。

私たちは、様々な問題を抱えて、もがいている人の痛みに関心であることなく、「善きサマリア人」がそうであったように、傷つき倒れている人に目をとめて、近づき、時間や財産を捧げて奉仕する生き方を自分のものとしたいものです。強くない人の“弱さ”を担いながら、“知恵の道”を示してくださる神さまに信頼して進みましょう。

コロナ疲れからでしょうか!? 信じられないような事件が多発する中で、“まっすぐな道”から外れてしまいそうになることもしばしばあります。互いに励まし合って、イエスの歩まれた“道”を逞しく、共に歩んで行きたいですね。

「すべてのことには意味がある」

これは、私がこれまで読んだ本の中で1番好きな本に書かれている言葉です。この言葉に出会ってから、自分の失敗を前向きに捉えられるようになりました。

この言葉に出会う前、大学3回生の時に、寮母さんから同じような言葉をかけられたことがあります。その時の失敗は私にとって非常に大きなものだったので、寮母さんの言葉を素直に受け止めることができませんでした。しかし、社会人になって1冊の本と出会い、改めて自分の過去を振り返った時、失敗したからこそ学べたことがたくさんあることに気づくことができました。悩みながらも自分がこれまで歩んできた道は、正しかったと思うのです。少し違う道に入って遠回りもしましたが、最終的に中学校の卒業式の日を決意した夢に辿り着くことができました。私には、まだ叶えたい夢がいくつかあります。これからも、自分が選んだ道をしっかりと歩んでいきたいと思えます。

私たちは生きている限り、多かれ少なかれ失敗を経験します。その失敗が自分自身を成長させ、明るい未来にすべてつながっているとしたら、失敗を恐れず積極的にチャレンジしてみるのもいいと思いませんか？

